

平成 31年度学校評価実施計画

学校名	大分県立聾学校
-----	---------

前年度評価結果の概要	重点目標に対する保護者アンケートでは高等部を除き、80%以上達成した。一人3実践の取り組みを進め、大分聾スタンダードの一定の成果が表れたと思う。専門性向上の取り組みにおいては、達成率83%であった。「聾学校に求める専門性チェックリスト」の活用が2年目となり定着してきた。いずれの重点目標も教職員・生徒・保護者アンケートを合わせるとそれぞれの達成指標を上回っていた。来年度も引き続き、大分聾スタンダードを活用した授業の質の向上に力を入れ、分かる授業の徹底とともに教員一人一人の専門性の向上に取り組んでいきたい。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、学校組織として一貫した教育を行うことにより、確かな学力と豊かなコミュニケーション力の向上を図り、様々な人々と係わりながら社会参加していく態度・習慣を養う。	(1) 個別の指導計画を活用し、一人一人の教育的ニーズについて共通理解をした実践を行う。 (2) 各学部間や寄宿舎との連携を強化し、幼稚部から高等部までの一貫教育を推進する。 (3) 本校に勤務するすべての教職員が、必要な知識・技能及び手話力を身に付け、教育(相談)活動を充実させる。	○障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。 ○本校に勤務する全ての教員が、聾学校に求められる専門性を向上させる。

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
○障がいに応じた合理的配慮を行うとともに、分かる授業の徹底を図る。	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を目指した、合理的配慮のある授業を行い、幼稚部保護者アンケートで85%の達成率を得る。 (前年度5ポイントUP)	・大分聾スタンダード(幼稚部版)を活用し、授業改善に取り組む。 ・PDCAサイクルに基づいたカリキュラムマネジメントを推進し、教育課程の見直しに取り組む。	・大分聾スタンダード(幼稚部版)を用いた授業評価と改善を年に2回以上行う。 ・年間2回長期休業中を利用し、カリキュラム・マネジメントに関しての共通理解の機会をもち、教育課程の見直しを行う。	PL:幼稚部主事 SL:教務主任
	・小学部保護者アンケートの「教科指導」の項目で、85%以上の達成率を得る。 ・大分聾スタンダード・授業のモデル図の実施について、教師アンケートで85%以上の達成率を得る。 (前年度比5ポイントUP)	・めあてや課題、まとめの提示、視覚教材の工夫等、大分聾スタンダード及び授業のモデル図に従った授業を実施する。 ・分かる授業の実施に向け、研修や授業研究を行う。	・国語や社会、算数、理科の授業で、大分聾スタンダード及び授業のモデル図に従った授業を85%以上実施する。 ・教師各自が、年間2回以上、公開授業及び授業参観を行う。 ・分かる授業をテーマに、学部で2回以上、研修を行うとともに、2学期に1回、研究授業を行う。	PL:小学部主事 SL:教務主任
	・大分聾スタンダードの実施について、中学部アンケート(教師・生徒)で85%以上の達成率を得る。 (前年度比5ポイントUP)	「主体的・対話的で深い学び」を実現するため ・生徒の発表の機会を設定する。 ・話し合い活動を設定し、学部で研修する場を設ける。 ・分かる授業の実施に向け、授業力向上について研修を深める。	・月に1回以上学部集会を行い、生徒全員が意見発表する場を設ける。 ・学部全体での話し合い活動を年8回以上行う。毎回授業担当者が指導案を提出し、学部全体で検討したのち授業を行う。 ・年に2回以上授業公開を行い、互見授業では5回以上の授業観察を行う。	PL:中学部主事 SL:教務主任
	・大分聾スタンダードの実施について、高等部アンケート(教師・生徒)で80%以上の達成率を得る。 (前年度比5ポイントUP)	・ICT機器などの視覚教材を用い、分かりやすい情報提供を心がける。 ・生徒主体で深い学びができる授業実践をする。 ・分かる授業の実施に向け、授業力向上について研修を深める。	・ICT機器を用いて、効果的な視覚情報をほぼ毎回提示する。 ・1時間に1回は生徒の発表の場を設ける。 ・学期に少なくとも1回、年間に3回以上の互見授業を行う。	PL:高等部主事 SL:教務主任
○本校に勤務する全ての教員が、聾学校に求められる専門性を向上させる。	・「自己評価のためのチェックリスト」の項目について「できた」または「深まった」の数が増えたとする教職員が100%となる。	・校内外の研修に積極的に参加し、自己の教育実践に活かす。	・全ての教職員が年度当初にチェック項目を確認し、どの項目の力量を上げるか目標を定め、年間2回のチェックで「できた」または「深まった」と言える数を5つ以上増やす。 ・「聾学校に求められる専門性自己評価のためのチェックリスト」の項目に該当する研修を計画・実施し、全ての教職員が3回以上研修会に参加する。	PL:研修主任 SL:学部主事